

南予地域の民話の信憑性について

1年1組 井上 結衣 1年1組 岡野 莉果
1年1組 田村 結衣
指導者 教諭 井上 真介 教諭 水谷真砂美
教諭 中川 彩矢

1 課題設定の理由

昨年の論文「民話から見る南予」を読み、民話は全く根拠のない作り話だと思っていたが、その当時の様子や歴史を現代に継承してくれているということが分かった。そこで、私たちは実際の出来事と民話の関連性について調べようと思ったのでこの課題を設定した。

2 仮説

民話には様々なジャンルがあるが、歴史関係の民話を調べれば、実際との整合性が確かめられるのではないか。

3 研究の方法

- (1) 学校の図書館や市立図書館での調べ学習と、資料収集を行う。
- (2) 「松根の生首」という民話に焦点を絞り、その信憑性^{しんぴようせい}について調べる。
- (3) インターネットを利用し、「松根の生首」の詳細について調べる。
- (4) 伊達博物館所蔵の資料を見学する。
- (5) 伊達博物館の学芸員から詳しく説明を聞く。

4 結果と考察

(1) 結果

ア 内容

「松根の生首」という民話は宇和島の話だ。現在の宇和島市立病院の場所にある。松根家のお屋敷に仇を討つためさまよっている幽霊が出て、新八郎という人がその幽霊^{かたき}の仇討ちに協力したところ、見事仇を討った幽霊がお礼に生首を置いて成仏した。その後新八郎はその生首を旗印とし、戦にそれを用いたという話である。

イ 生首の旗印について

生首の絵を旗印に用いたのは、今まで殺した人を弔うためだと言われている。また、このような旗印は大変珍しいそうだ。そして、鎧^{よろい}の前立ての模様も生首にしていたと言われている。現在は伊達博物館に所蔵されている。

ウ 句碑について

伊達博物館の裏には松根家の句碑がある。その句碑には、「わが祖先は奥の最上や天の川」と「鴛々や湾の外まで春の海」と書かれている。これらの句は、俳人であった松根東洋城が昭和4年に松根の地を訪れて、祖先を偲^{しの}んだ句である。また、宇和島東高校の校内にも、それに関連した句碑がある。



写真1：生首の旗印



写真2：伊達博物館の句碑



写真3：東高の句碑

(2) 考察

作中で使われていた旗印が現在も残っていることや、松根家の子孫がいることから、この民話の信憑性は高いと考えられる。また、その地域にとって重要な出来事を民話にし、語り継いでいったのではないかと考えられる。

5 まとめと今後の課題

今回、このテーマで研究して、歴史関係の民話は当時の歴史を現代に伝えている可能性が高いものもあるということが分かった。民話はその時代に起こった様々な出来事を忘れないために語り継がれているものもあるのだと思う。

今回の研究では一つの民話しか調べることができなかったため、もっと複数の民話について調べることが課題である。

6 参考文献

- ・話者 渡辺喜一郎、編集秋田忠俊、平成8年『愛媛の昔語り』、p 124, 125 青葉図書
- ・松根東洋城句碑建立 <http://www9.plala.or.jp/matune/kuhijomakusiki.html>
- ・『民話から見る南予』